

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078000082		
法人名	有限会社 まんてん		
事業所名	グループホーム まんてん	ユニット名	
所在地	福岡県久留米市三瀬草場33の1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年2月27日	評価確定日	平成27年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭に近い雰囲気を作り出すよう心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームまんてん”の玄関に入ると、社長や施設長、職員の方々の温かい笑顔が溢れていた。開設時から長く勤めている職員も多かったが、70歳と言う定年を機に退職された方もおられ、26年度は大きな転機を迎えた。社長や施設長、新管理者のお人柄もあり、新しくチームに合流した職員の方々とも良きチームワークを築いてこられた。ご利用者の自立支援の視点も継続し、「できる所は自分で行う」環境が作られ、ご利用者個々の生活背景や家族関係も丁寧に把握し、ご利用者の心理を大切にされた個別ケアが行われている。人員的に厳しい時期を乗り越えてきた職員が結束し、更なる“まんてん”の笑顔に繋がっているホームであり、今後も様々な書類やマニュアルの整備を行うと共に、日々の業務を振り返り、職員個々の業務分担等も検討していく予定である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は理念と経営方針を理解し、管理者が地域に馴染めるよう近隣の方々とのお付き合いを大切にしている。	「一人ひとりを大切に、優しい笑顔、人に優しく、自分に厳しく」という理念を大切にしている。優しい職員ばかりで、新施設長と新管理者を中心に、ご本人の思いを大切にしたい関わりがされており、ご利用者個々の生活背景に応じたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者・職員は近隣の方々へのあいさつはもちろんの事、遊びに来ていただけるよう声掛けも行っている。	老人会主催の行事(だご汁会等)に参加し、踊り等を楽しまれた。ボランティア(さくら会)の方が来て下り、舞踊や大正琴、詩吟等を披露して下さい。散歩の時に地域の子ども達に「遊びに来てね」と声かけしており、今後も子ども達との交流を増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等において、参加者の方々に対して認知症という症状に対して理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、外部評価後の運営推進会議で、報告を行うとともに、それに対する意見をいただきサービス向上に活かしている。	会議では日々の取り組み状況を報告し、災害対策のアドバイスも頂いている。事故予防の提案を頂く事もあり、「身体拘束をしない取り組み」を説明し、認知症ケアを共有する機会になっている。市の方から感染症情報を教えて頂き、参加者から質問が多く寄せられている。	今後も会議の議題を検討すると共に、子ども達との交流方法もアドバイスを頂ければと考えている。議題に応じてゲスト等を招待すると共に、より多くの家族の方に参加して頂く方法を検討していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所に出向いたときに相談し助言をいただいている。	社長が三瀬町の認知症サポーター養成講座の講師を務めている。市役所の方や地域包括の方から、ご利用者の紹介を頂く事も多く、入居に関する疑問点などは、市の担当者等に相談し、一緒に検討する関係ができています。市の担当者から研修情報等をメールで送って頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員は、危険性・緊急性・一時性がない場合は、身体拘束を行わない介護を実践している。	入居時に「身体拘束をしないケアをしている」事を家族に伝えると共に、それに伴う転倒等のリスクも説明している。行動障害が強く表れている時は、主治医に相談し、必要に応じて入院治療も行われ、帰宅願望が見られる時も職員が寄り添い、家族との相談も続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、ミーティングにおいて虐待について内部研修を行うとともに、どのような場合においても利用者が虐待されることの無いように注意防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、ミーティングにおいて内部研修を行うとともに冊子をいつでも読めるよう設置している。	市の方が主になり、制度の利用を手続きしている方もおられる。施設長が入居時に制度の説明を行い、必要な方に制度の活用ができる支援を行うようにしている。社長が制度に関する資料を準備しており、今後は運営推進会議等を活用し、勉強の機会を作っていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行うとともに書面上で同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料を支払われるときに、意見予防等を聞いて運営に反映させている。	家族の面会時や電話で要望を伺っている。ご利用者との会話の中で、日々の生活や日課への要望も聞かれ、ご本人の意思を尊重しながらも、適切なケア内容の検討を続けている。今後も更に家族との情報交換を深め、真意の把握に努めていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や朝夕の申し送り時に、意見や提案を聞いて運営に反映させている。	日々の業務やミーティング時に、ご利用者のケア方法についての意見が多く聞かれている。管理者が職員個々に意見を聞いており、悩みも話して下さっている。今後も日々の業務を振り返り、職員個々の業務(役割)分担なども検討していく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績に関しては賞与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては一切の偏見はしていない。また職員個々の能力を生かせるよう努めている。	男女の職員が勤務しており、職員の年齢層も広く、性別や年齢等を理由に採用対象から排除する事はない。職員個々の特技があり、毎日の食事作りなどで力を発揮して頂いている。希望休が取れるよう勤務調整が行われ、新施設長と新管理者を中心に、良きチームワークができています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者又は施設長が外部研修を受けミーティング時にフィードバックしている。	施設長や管理者はミーティングの時などに、“一人ひとりを大切に”と言う事を職員に伝えている。ご利用者との会話を大切にする事も伝えており、新人職員も素直に聞かれている。ご利用者は、昔話や昔の歌などを職員に教えて下さり、勉強の機会になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成するとともに。研修費や資格取得への補助を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流会に参加しており、良いところは進んで取り入れている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートに本人の情報・要望を聞き、できる限り意に沿えるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の要望を聞き、できる限り意に沿えるように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談の時点で、利用者本人の状態を考慮し、他事業所サービス利用を含めた提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、「家族」という言葉を念頭に日々活動するよう教育している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が協力して利用者本人を支えていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者さんから普段の生活の場面で行きたい場所や以前仲が良かった方々のことを聞き出しており、対応できるようにであれば車で同行援助している。	学校時代の友人と旅行に行かれた方がおられ、職員は旅行の準備を手伝った。「食事も美味しかった。ここの料理と変わらなかった」等の感想を話して下さった。家族の面会もあり、年賀状は職員が出している。今後も馴染みの場所などを把握し、介護計画に盛り込む予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員一人一人が把握し利用者間でトラブルがあった場合には必ず仲裁し仲を取り持っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も時折、近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格・生活歴・経験等を考慮して、できる限り本人の意向に沿って生活できるよう取り組んでいる。	様々な生活背景があって入居されている方も多い。家族との関係も丁寧に把握し、ご利用者個々の関わりやケア内容を検討している。ご本人の希望である“安心・安全・楽しく”と言う思いを大切にされており、「病気になるないように」「転倒しないように」医療連携やリハビリも続けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に利用者さん本人の生活歴・経験・出来事などできる限りの情報を収集しご家族、ご本人と話し合いその人がその人らしく生活できるよう取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日誌を作成し、その日の心身状態1日の過ごし方など職員全員が把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しについてはミーティングにおいて全職員で話し合い、よりよいケアを選択するようになっている。	ご本人の生活歴や得意な事を大切にしている。介護計画には「温かくなったら散歩に出る」「洗濯物たたみ」等も盛り込み、自立支援の視点で“できる事”をして頂いている。心身状況に応じて、「体重を増やす」事を目標にしている方もおられる。	今後も家族の方に暮らしぶりを報告し、介護計画と一緒に話し合う機会を作っていく予定である。ご本人の要望を引き出すと共に、馴染みの場所を把握し、馴染みの場所への外出や外食の機会を増やしていければと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を個別に作成し利用者の心身状態を職員全員が把握できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及びご家族のニーズに対しては、できる限り対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協・区長・老人会・児童民生委員・ボランティアの方々警察消防機関等と協力しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は契約時に本人またはご家族に選んでいただいている。	施設長が受診介助し、主治医に日頃の体調等を報告している。26年夏から、月曜から土曜までの往診があり、水分量等の指示を頂いており、訪問看護師からはリハビリ等のアドバイスを頂いている。今後も感染症対策等のマニュアルを再確認し、勉強会を継続していく予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の日々の気づきは往診時や週一回の訪問看護師が来るときに伝え利用者の健康保持に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には必ず職員が同行しドクターとの情報交換を行っている。入院中も病院へ訪問し利用者の状態把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所・ご家族・医療機関と連携をとりながら終末期のケアに取り組むことをご家族ご本人に説明し納得していただいている。	契約時に「看取り介護に関する指針」の説明が行われ、「最期は病院で…」と希望する方もおられる。「医療処置は望まず、ホームで自然に最期まで」と言う方もおられ、23年度に看取りケアが行われた。24時間体制で往診医や訪問看護師と連絡を取る事ができ、夜間の往診も受けられ、職員の安心になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常年2回の避難訓練を行っている。	スプリンクラーを設置している。昼夜を想定した避難訓練が行われ、消防署の方からも「消火器の置き場所」等のアドバイスを頂いた。ホームの第一避難場所となっている隣家の方にも、訓練のお誘いをしており、災害時の協力依頼もしている。災害に備え、3日分の飲料水や食料を準備している。	今後も災害対応マニュアルを見直していく予定である。消防署の方から頂いたアドバイスをマニュアルに追加し、職員全員で共有すると共に、今後の訓練に活かしていく予定である。緊急時の対応や感染症対策の勉強も継続する予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者がなじみの関係にはあるものの言葉かけには注意するよう日々の活動の中やミーティング時に指導している。	職員は日々のケアの中で、ご利用者の自尊心を傷つけない声かけに努めている。馴染みの関係でもあり、「親しき仲にも礼儀あり」と言う言葉を含言葉に、優しい声かけを心がけている。個人情報の取り扱いにも注意を払い、情報漏洩しない取り組みを続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても本人が選択できるような言葉かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるものの無理にその流れに乗せるような対応はしていない。利用者の個々のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、ご家族に納得していただいたうえで訪問理容を利用していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をその場その場で利用者の意見を取り入れながらたてたり利用者に豆の皮むきやテーブル拭きを手伝ってもらっている。	施設長が調理師であり、献立に応じた食材の購入をしている。決まった献立はなく、ご利用者の要望などを確認し、過去の献立も参考に美味しい料理が作られている。魚が好きな方も多く、お刺身も食べられている。テーブル拭きや下膳など、ご利用者のできる事をして頂いている。	職員も一緒に楽しい食事の時間を過ごしていた時期もあったが、現在はご利用者の食事の見守り等を行い、優しい声かけをしている。今後は更に、“食事を一緒に楽しむ”方法を検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日個々に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの支援に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し気持ちよく排泄できるよう対応している。	布の下着を使用し、排泄が自立している方もおられる。個別の誘導を行う事で失敗も減っている。羞恥心の配慮も行い、排泄時の声かけも小さくしており、排泄時はカーテンやドアを閉め、後ろで見守りを行っている。「夜だけ紙パンツ」など、ご自分で意思決定をされる方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を個々に行っており必要な場合にはかかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日及び時間は設定しているが希望があれば柔軟に対応している。	浴室の窓を開け、露天気分で入浴できる。肌が弱い方は綿素材の洗身用タオルを準備したり、保清に努める事で皮膚病が治った方もおられる。湯船に浸かり、「ここに来てよかった～」と笑顔で言われる方もおられ、職員も嬉しく思っている。シャワーの方も足浴を行い、保温に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には自由に休息をとっていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬情を保管するとともに職員全員が把握し症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かした草花の手入れ、草取り、洗濯物を干したり畳んだり手伝っていただいております利用者には笑顔が見られる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は利用者一人一人に聞いて支援している。普段いけない場所への外出は職員・利用者で話し合い場所を決めている。	職員とホーム周辺を散歩されている。施設長の運転で、梅や桜、藤などの花見に行かれたり、柳川の足湯も楽しまれた。ダイレックスやゆめタウンに行き、お菓子を買われたり、地元の酒蔵の蔵開きに行き、お酒を試飲する事もできた。今後も外食などを楽しまれていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい方は買い物するときにホーム側が立て替えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。手紙も希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植木、草花。装飾品、人形、四季折々の写真利用者の日々の写真、手作り作品等を全体に取り入れ明るく和やかな空間づくりに心掛けている。	玄関に消臭効果のある蘭の花(造花)を置いており、適宜換気もしている。リビング横の和室をフローリングに変更し、車いすの方も移動がスムーズになっている。室温へのこだわりがある方もおられ、ご本人の意向を大切にしながらも、適温調整を心がけている。ベランダで日向ぼっこをされたり、ミカンを食べられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今やダイニング、廊下などソファやいすを設置し気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前に極力使い慣れたものを持ち込んでいただくようご家族に説明している。	ペット(電動ペット)、カーテン、エアコンなどを備え付けている。自宅で使用していた寝具やタンス等を持ち込まれ、写真なども飾られている。仏壇や遺影を居室に置かれている方もおられ、職員とお茶を供えている。居室で本を読まれたり、編み物をされる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室及び共有空間において利用者にとって障害物を極力排除しかつ安全に移動ができるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				